

秋といえば・・・



10月に入り、気が付けば既に中旬となっていました。季節的には、秋到来というところですが、最近では、世界的な気候変動の影響により、真夏日もあれば、一気に気温が下がり秋本番と思えるような日もあって、なかなか体調管理が難しいのではないかと思います。

とはいえ、季節的には間違いなく秋となり、各学年のところを見て回っていると、秋についての記述がされている学年があり、秋から連想することを書いている掲示物がありました。

秋といえば、「さつまいも」や「栗」、「どんぐり」、「とんぼ」、「さんま」に「紅葉」と、日本特有の秋を感じられる言葉がたくさん書かれていました。四季のあるこの日本ではありますが、気候変動の影響がある中でも、まだまだ四季を感じることができる日本人の感性を、自分自身も受け継ぎ、引き継いでいきたいものだと改めて感じたところです。

さて、秋といえば、という言葉では、様々に例えることができますが、その中には「学びの秋」というものもあります。

学校においては、校内研究における研究授業も学年・学級でも取り組まれており、国語の「書く」という領域において、研鑽しております。更には、他校の先生方が学ぶ場として、本校の4年1組の押見指導教諭による理科の公開授業も行われており、コロナ禍にあって、先生方の大切な専門性を学ぶ場としても提供しております。

また、校長室便りのNo.2でも、お伝えしておりますが、現在、2学期に行う先生方の授業観察と教職員の面接を行っています。年度の途中でもあり、先生方の取組の成果と課題を確認すると共に、各学級の児童の成長や課題も確認して、年度の終わりに向けての再確認の時となっています。

国立市においては、各校の主幹教諭等の先生方を中心にグループを作り、これからの小・中学校の学校現場を背負っていく先生方の育成を行う教育リーダー研修会を実施し、学びの機会としています。先日も、各グループのテーマを基に発表が行われ、これからの学校を担う先生方の頼もしい発表を見てまいりました。更には、国立市内の小中学校の先生方が共に学ぶ場として小中学校合同授業研究会という機会も作っています。これは、各教科や領域のグループに分かれて研鑽しており、今月の10月と11月の2回に分かれて、研究授業の発表をしています。

小中学校合同授業研究会については、保護者の皆様にもお手紙を配布しておりますが、今年度は、コロナ禍の対応として公開発表としておりませんので、ご了承ください。

避難訓練と防災

先週の7日の金曜日に、首都圏を中心とした震度5強を最大とした大きな地震が発生しました。私もうたた寝をしていたところに、突然の地震の揺れで慌てて目を覚まし、揺れが収まるまでの間、学校は大丈夫だろうか、子供たちに被害はないだろうか等、思いを巡らせていました。次の日も、電車に影響が出ており、学校への通勤では、遠回りをしましたが、いつもと同じ時間帯に到着することができました。多くの先生方においては、やはり影響が出ていましたが、子供たちへの影響はなく、学校の教育活動が通常通りに行えたことにほっと安堵しました。

しかし、今回の地震では、皆様も経験されているであろう東日本大震災の時が鮮明に思い出され、当時感じた様々な感情も呼び起こされました。やはり大きな経験や体験は、知らず知らずのうちに体の中に刻み込まれていることを感じたところです。

日本という国は、台風においても、洪水においても、地震や津波においても、多くの災害の経験を有する国であると共に、備えに対して常に意識をしている国でもあります。今週の16日(土)の土曜授業日では、防災に関する学びの機会として、119番通報訓練、AED体験等、各学年の発達段階に応じた訓練を行うことにしています。

これまでは、学校公開としておりましたが、現在はリバウンド防止措置期間ということで、公開ではありませんので、ご了承ください。



本校の特別支援教育における特別支援教室とことばの教室の紹介

本校は、本校と国立第三小学校の子供たちが指導を受ける通級指導の特別支援教室「はばたき」を開設しています。現在に至るまでの通級指導は、開設されている学校に子供たちが通い、そこで指導を受ける形で運営されてきましたが、現在は、先生方が各校に行く形となっています。

そのことによって、子供たちが在籍している学校で指導を受けることができ、自分の学級で取り組むことができる時間が多くなることで、安心と安全が確保された形になりました。

本校と国立第三小学校で指導している先生方は、本校が特別支援教室の拠点校となっていることから、全て本校の教員として在籍しており、本校の様々な学校行事や教育活動に取り組むと共に、第三小学校における取組にもできるかぎり参加して、子供たちの指導のための様々な情報や状況を把握しています。

「はばたき」を利用している子供たちは、自分が苦手としている友達との関わりや、自分自身のことを考えることを通して、自分の良さに気付くこと、自分の得意なことを生かせるようになること等、通常学級の指導だけでは身に付けにくいことを学ぶ時間として、校内にある「はばたき」の各教室で学んでいます。一対一や一対二で受ける個別的指導と小集団で受ける指導があり、それぞれの子供たちがもつ特性に応じた個別指導計画の基に実施しています。

本校には、国立市で唯一、「ことばの教室」も開設しています。

ことばの教室は、発音、吃音、言語発達、読み書き、難聴等についての学びや指導を受ける教室です。個別指導が中心ではありますが、時には、同じような指導を受ける子供たちが集まって学びを共有し合いながら、指導を受けることもあります。

こちらは、本校の児童を除いては、他校から通っていただく形のため、「はばたき」とは違い、先生方が他校に行って指導をすることはありませんが、子供たちの状況を把握するために、担任の先生方と連携を図ったり、時には、学校訪問をさせていただいて子供たちの様子を直に見せていただいたりしながら、指導の充実を図るようにしています。また、保護者の方も同席をして、指導を行うことや、送迎時に保護者の方とお話をするを通して、連携を密にすることができることも、ことばの教室の強みとなっています。

どちらの教室においても、学びを高めることで指導や支援を終える「卒級」をすることを目指して取り組みながら、子供たちにとって、安全で安心した適切な居場所となるよう、先生方が常に研鑽をして、お互いを高めています。

校長のつぶやき ～好きこそものの上手なれ～

私は、小さい頃から理科や科学に興味があり、小学校のクラブでは、理科クラブに所属していました。担当の先生が6年生の担任の先生ということもあり、一生懸命に実験や観察をした記憶があります。

夏休みの自由研究で、5年生の時に「一日の気温の変化について」の観察を、6年生の時には、「色を付けた水の温度の変化について」の実験を行い、画用紙にグラフや表を入れてまとめ、提出したことを覚えています。そんなこともあって、自分を積極的にさせてくれた理科が好きになり、6年生の卒業文集には、天文学者になりたいと書きました。今も時間があるときには、自分の息子が持っている天体望遠鏡を使って、月や星を見ることがあります。

中学校では、積極性が高まったこともあり、何故だか、多くのクラブに所属し、合唱はもちろんのこと、リコーダークラブや吹奏楽部、社会科クラブの4つを並行して活動しました。

高校と大学では、合唱部一筋となり、今に至るといふ訳です。

私は、幼少期から小学校の5年生までは、とても臆病で手を挙げることも自分からすすんで取り組むこともなかなかできない子どもでした。しかし、5年生での合唱との出会い、5・6年生での理科クラブでの活動がきっかけとなって、自分に自信をもてるようになったと思います。

そこで、伝えたいことは、「好きこそ、ものの上手なれ」ということです。

上手にできる、できないにかかわらず、好きになることで、頑張って取り組むことができるようになり、頑張ったことで自分でもこんなことができるんだという自信になります。

好きであることで、負けずに頑張れることに出会えた私は、幸せだなと

感じています。子供たちにも、多くの経験や体験の中から

好きなものに出会い、頑張れる人にと願っています。

